

《報道資料》

パテック フィリップ ジュネーブ

2009年3月

パテック フィリップの誇り高い伝統、カラトラバ・オフィサーウォッチ5153モデル

《オフィサーウォッチ》は、パテック フィリップのタイムピースの中でも特別な地位を占めている。パテック フィリップが、創業以来培ってきた創作哲学のルーツに最新の解釈を与え、新たにオフィサータイプのカラトラバ5153モデルを創作したことは、伝統に対する義務ともいうことができよう。

究極のクラフトマンシップを体現するオフィサータイプのケース

パテック フィリップの他のオフィサーウォッチ同様、新しい5153モデルの重要な特徴のひとつが、サファイヤクリスタル・バックを保護するヒンジ付カバーを備えた18金イエローゴールド・ケースである。オフィサーケースこそは、今日も製作が続けられている最も高度なケース構造のひとつである。正面から見ただけでは、ミラーポリッシュ仕上げの丸みを帯びたベゼルを持つ、クラシックなカラトラバである。直線的なラグ、エレガントなネジ式のバー（バネ棒）、ターバン型のリュウズ、そしてリュウズ側の小さな隆起部のみが、オフィサーケースであることを暗示している。この隆起部が、サファイヤクリスタル・バックを保護するカバーのヒンジを隠しているのである。このようなディテールを見るだけで、このケースがいかに高度なクラフトマンシップによって組み立てられている精密な構造物であるかが想像できる。カバーが閉じている時は、ヒンジと、反対側の突起はほとんど目につかないほどである。カバーを開く時は、この微細な突起に爪をかけて開く。カバーは、閉じた時に円周のすべての部分が完全に密着する必要がある。カバーを閉じた時に聞こえる澄んだクリック音も、常に同一でなければならない。最も才能あるクラフトマンのみが、ヒンジ付カバーを10ミクロンの精度でケースにアジャストすることができるのであり、清澄なクリック音はその証である。必要とされるのは最高のクラフトマンシップだけではない。忍耐力も必要である。ケースメーカーとポリッシャーは、このチャレンジ溢れる作業にほぼ2日間をかけるのである。

クラシックな美しさの文字盤

ケースだけではなく、文字盤も特筆に値する。パテック フィリップのすべてのタイムピース同様、カラトラバ5153モデルの文字盤は、比類のない美しさを誇っている。シルバー・オパール文字盤の中央にはソレイユ（サンバースト）・ギョシェ装飾が手仕上げで施され、上部に配置されたゴールドのレリーフにはブラックで《PATEK PHILIPPE GENEVE》の文字が記されている。文字盤外周にはゴールドプレート・パール分インデックス、ファセット研磨されたアロー型のゴールド植字アワー・インデックスが配置されている。3時位置の大型日付表示窓は、ポリッシュ仕上げされたゴールドのフレームで縁取られている。時・分針は、鋭くファセット研磨されたドフィーヌ型。文字盤外周に達する長さのスリムなセンターセコンド針には大型カウンターウェイトがついている。

パテック フィリップ・シールを刻印したタイムマシーン、キャリバー324 S C

搭載されたムーブメントは、パテック フィリップの自動巻キャリバー324 S Cである。単方向巻上げ式の重

厚な21金中央自動巻ローターを備えている。テンプレ振動数は28,800振動（片道）／時（4 Hertz）、振り角の大きなテンプレにより、パテック フィリップ機械式ムーブメントの自社規準である日差-3～+2秒を実現している。パテック フィリップのすべての機械式ムーブメント同様、スチール部品に施された面取り、地板と受けに施されたコート・ド・ジュネーブ装飾、ゴールド・ローターに施されたサーキュラー・コート・ド・ジュネーブ装飾と刻印など、精緻な仕上がりを誇っている。これらはヒンジ付カバーを開け、サファイヤクリスタル・バックを通して鑑賞することができる。

パテック フィリップ・オフィサータイプ・タイムピースの伝統

《オフィサーウォッチ》は、パテック フィリップの長い伝統の賜物である。創業者アントワーヌ・ノルベール・ド・パテック伯爵は、ポーランド軍の元士官であった。1830年代にロシアに対する反乱が制圧された後、母国を離れた彼は、ジュネーブに居を定めた。

《オフィサーウォッチ》のデザインは、第一次世界大戦中、ヒンジ付カバーを備えた懐中時計が実用的理由から腕時計に改変されたことをきっかけとして誕生した。以後、パテック フィリップは、歴史的意味合いの深いタイムピースにオフィサーケースを好んで用いてきた。バーゼルワールド2009で発表された18金イエローゴールド・カラトラバ・オフィサーウォッチ5153モデルはその最新の例といえよう。

《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

A D & P R ディレクター

丸山和泉

電 話：03-5209-8018（直通）

F A X：03-3256-7558

maruyama@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03-3255-8109

パテック フィリップ ホームページ：<http://www.patek.com>（英語）

